

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年7月30日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2874200252		
法人名	社会福祉法人JAあいおい福祉会		
事業所名	こすもす倶楽部		
所在地	兵庫県相生市野瀬1356番地 (電話)0798-24-0600		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月28日	評価確定日	平成19年8月24日

【情報提供票より】 (19年6月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	15人
職員数	16人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 15人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての	1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	25,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

#### (4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	15名	男性	2名	女性	13名
要介護1	9	要介護2	5		
要介護3	1	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82.9歳	最低	73歳	最高	95歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平田クリニック・室井整形・心療内科
---------	-------------------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

海と山に囲まれた自然豊かな立地条件の中で、日課となっている散歩、地域行事、畑の整備、野菜の収穫などを通して地域に溶け込み、住民の方との交流が活発に行われている。ホームの1日の流れの中で、職員は利用者のあるがままの姿を受容し、一人ひとりの思いを尊重しながら個々のペースに合わせ、自立した生活が過せるよう配慮し、安心して過せる支援が見られる。本人・家族が苦情や要望を話易い環境があり、出された苦情や要望を運営推進会議で報告、意見を反映させ改善へつなげている。ダイバーショナルセラピーを導入し、利用者個々の独自性と個性を尊重しながら、最後までその人らしくよりよく過ごすことができるようプロセスに基づいてケアを提供、実施内容と評価を併せて家族に説明している。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>評価受審後会議を開き職員に公表している。前年度の評価結果を踏まえ計画的に改善を行い、今年度の評価につなげている。自己評価は各ユニットごとに作成している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前年度の評価結果を踏まえ計画的に改善を行い、今年度の評価につなげている。自己評価は各ユニットごとに作成している。家族には自己評価の閲覧を呼びかけ、来所時には殆どの家族が閲覧している。評価結果を踏まえて改善点・改善した点を明示している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、全員参加で2回実施している。活動状況報告や苦情・事故内容を公開し意見や助言をもらえる場になっている。運営推進会議議事録を職員に回覧している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>本人家族からの苦情・要望の記載シートを作成し書面で1年に1回第三者委員に送付している。職員間で苦情・要望の共有を図り検討している。また、運営推進会議で報告し意見を改善に反映させている。定期的に機関誌・ユニット便りを発行して、利用者の日々の生活状況を手書きで記載し、利用者本人の手書きの手紙を添えて家族に報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>地元の協力体制が整っており、日々の散歩途中挨拶を交わし、花・野菜などの新鮮な収穫物を頂くなど友好的な関わりがある。畑作りのサポート・行事への協力参加等地域との交流がある。餅まきへの参加の呼びかけがあり危険性が懸念されたが自然な形で参加出来ている。</p>

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念を具体的な言葉で見やすい位置に雰囲気損なうことなく掲示している。地域密着型サービスとしての理念を検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。理念が実際のケアに活かされているか話し合いを持ち、日々のケアで迷った場合、職員・管理者含め自然な形で理念に立ち戻り、話し合いもたれている。実習生にも同じように唱和してもらい周知する取り組みがある。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元のサポート・協力体制が整っており、散歩途中に野菜を頂いたり、畑作りのサポート・行事への協力・参加等地域との交流がある。餅まきへの参加の呼びかけがあり危険性が懸念されたが自然な形で参加出来ている。近隣の方の来所が少ないことを課題と捉え検討している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価結果を踏まえ計画的に改善を行い、今年度の評価につなげている。自己評価は各ユニットごとに作成している。家族には、自己評価の閲覧を呼びかけ、来所時には殆どの家族が閲覧している。評価結果を踏まえて改善点・改善した点を明示している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、全員参加で2回実施している。活動状況報告や苦情・事故内容を公開し意見や助言をもらえる場になっている。意見や助言内容は、職員に直接通達したり、運営推進会議議事録を職員に回覧している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加、介護保険の手続き等交流を持っている。現在共用型のデイを検討中であるため頻繁に連携を取っている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に機関誌・ユニット便りの発行をしている。日々の生活状況をユニット便りに手書きで記載し報告している。利用者本人の手書きによる手紙も同封している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>本人家族からの苦情・要望の記載シートを作成し書面で1年に1回第三者委員に送付している。また、運営推進会議で報告し意見を反映させている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職や異動があるときは、広報誌に本人のコメントを載せて公表しており、離職・異動に関するダメージを最小限にするように取り組んでいる。普段から各ユニットの早出勤務職員を交代して勤務させ職員が欠勤した時に利用者の混乱を避けるため職員のユニット間の交流を行い、顔なじみの関係作りをしている。</p>		
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は、職員一人ひとりに参加希望を聞き参加させている。受講後内部研修の機会を利用し、外部研修での講義内容の復講を行い職員に伝達して業務に活かしている。復命を繰り返す事により職員が人に言葉で伝えることが上達している。自主研修会は職員の希望を聞き、月1回研修会を実施している。自主勉強会は職員の自主性にゆだねているが参加率は良い。</p>		<p>自主勉強会の内容の希望は聞いているが、勉強内容を年間計画として立案し確実に勉強会が実施できるような取り組みが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のネットワークを立ち上げ、定期的に会議を開催し情報交換などを行っている。現在管理者のみの集まりとなっている。</p>		<p>地域の同業者間のネットワークの中で職員間の交流・勉強会の場を持ち地域全体のサービスの質向上を目指されることを期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に本人、家族から心身の状況を把握し、事前見学時に十分コミュニケーションをとり、不安なく入居できるよう配慮している。在宅から入居に至る場合、入居申し込み後に順番が来れば自宅に訪問し顔見知りの関係を作るよう取り組んでいる。現在共用型デイサービスを検討しており、デイ利用から入居に至るよう取り組みを検討している。</p>		
<p><b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の趣味・特技等、家族から聞き取った情報を活かし、調理・畑仕事・掃除など自然にホーム内での役割が決まってきた。職員とふれ合いを持ちながら共同生活を支えあい、一人ひとり自主性をもってホーム内の生活を楽しく過ごしている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>時々ユニット交流を持つようにしている。自然発生的に一人ひとりが生活行動を起こしており、入居者が生活リズムを作っている。入居者一人ひとりの思いを受けとめ、自立した生活が送れるよう支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に状態の観察を行い詳細に記録された個人記録・モニタリングをもとに、ケース会議で課題検討し、個別具体的な介護計画を作成している。介護計画に沿ったケアの実践に取り組んでいる。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月に1回のモニタリング・見直しを実施。サービス計画書のサービス内容は、実際に実施しやすく、実行可能で評価しやすい内容になっている。 リスク予測シートを作成し事故予防に努めている。		安定している場合でも月1回程度は、本人・家族の意向を確認し予防的に対応していく為の介護計画の見直しの実施が望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリの定期通院・整形外科・眼科、歯科など利用者の希望に沿った受診対応を実施している。また随時の買い物支援など多様に対応している。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を基に緊急時・夜間対応も可能となっている。本人・家族の希望するかかりつけ医に受診も可能である。 心療内科は2週に1回の往診がある。内科・歯科・整形外科・眼科との連携もあり、必要時往診が可能になっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在までに対象となる事例もなく、受け入れは考えていないが、ターミナルをテーマにした内部研修は実施されている。入所前の聞き取り時に家族に意向を確認しているが、明確な回答は得られていない。</p>		<p>運営方針に基づき、重度化や終末期における方針をホームとして検討し作成しておくことが望ましい。</p> <p>家族へ説明・納得を得て取り組んでいくことが必要である為検討が望ましい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>入浴時は入居者のADL・認知度によりドアの外で声かけを行いプライバシーに配慮している。同性介助を基本として実施しているが、本人・家族の希望により対応している。個人情報記録の背表紙は個人が確定し難いように配慮されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームの1日の流れの中で、入居者一人ひとりの思いを尊重しながら個々のペースに合わせ、自立した生活が過せるよう支援している。散歩・掃除・買物・レクリエーション等その日の気持ちや体調に配慮した個別の対応を行っている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>1週間分の献立を立て、入居者と共に食材の買物にも行き調理している。食事の支度等入居者が自発的に手伝い、自然に役割が出来る。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、入居者の希望に沿うようにしている。個別入浴マニュアルを作成し個々の入居者の自立と安全性・羞恥心などを考えた配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ダイバーショナルセラピーに取り組み、生活の中で入居者一人ひとりの出来ることを見つけて支援する事を基本に、自信を持っていきいきと暮らしている。自然発生的に入居者個々の生活の中での畑仕事・掃除・調理、配膳、下膳などの役割が出来ている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状況・希望にあわせ、自然に恵まれた施設周辺を毎日散歩し、買い物・外食に出かけている。また、日帰り温泉、温泉旅行に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件的に急な傾斜の坂道・溝などが多い道路状況のため門扉のみ施錠しているが、共用部より直ぐに開錠できるようになっている。居室から庭に自由に出入りが出来、閉鎖感を感じられない。入居者個々の希望に添った散歩や外出も頻繁にしている。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防避難訓練を併設施設と年2回実施する他、ホーム独自で年2回避難訓練のシュミレーションを行っている。行方不明者捜索訓練を昼間・夜間で実施し職員の対応がスムーズに実施できるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取状況をチェックリストで把握し記録している。記録により職員間で状況は共有されている。カロリー・栄養は特養の管理栄養士により、把握ができ指導を受けている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭を思わせる玄関の前庭に季節の花・野菜を植え、外来者に安らぎと親近感を感じさせている。自然光が差し込み換気もよく居心地のよい共用空間の随所にソファを置き、気のある入居者同士がゆったりと過している。定時に空調の調節があり適温に調節され、気になる臭気も感じられない。キッチンから食器を洗う音・調理のにおいが漂い五感刺激につながっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・仏壇など日用品が持ち込まれ、担当者が家族や本人とともに安心して過せる居室作りを支援している。また、各居室壁面に利用者の好みや、馴染みの物などを入れたメモリーボックスを設えその人らしさを感じられる。		

は、重点項目。